



ひさいぶんかざい
被災文化財
を救え!



いしかわ歴史資料保全ネットワーク



文化財の体系図

文化財

みなさんの身の回りにある古くから伝えられてきたモノが文化財といえるね

例えば
遺跡や建築物、工芸品、古文書、お祭りや踊りとかも文化財なんだ

日本の文化財について担当している文化庁は「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」としている

出典：(文化庁「文化財の体系図」)







文化財レスキュー編

絵：なななな



おじいちゃん!!
手伝いに来たよ!!

おお!
来てくれたか!!

わしだけでは
片付けが追いつかん
から助かるよ

えへへ



取り壊しじゃらうな...

親父の大切なものが
しまつてあるから
大事にするよう
言われておつたが...

危ないの...



あれ?

この蔵は
どうするの?



ふむ!

ならウチの蔵も
何とかしてくれる
かもしれんな!

じゃあ
頼んでみよう!!

Gogo



この前ウチも
整理しててさ!!

町役場の学芸員さんに
見てもらったら
色々見つかったんだ!

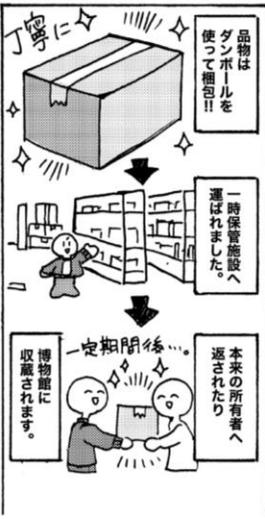


そうだ!!

なら!!
学芸員さんに
見てもらったら?

学芸員さん??

?



※文化財防災センターの呼び掛けで、全国から集まった博物館の学芸員などの文化財関係者で結成された文化財保護活動をおこなうボランティア組織「史料ネット」も協力し、作業にあたる。

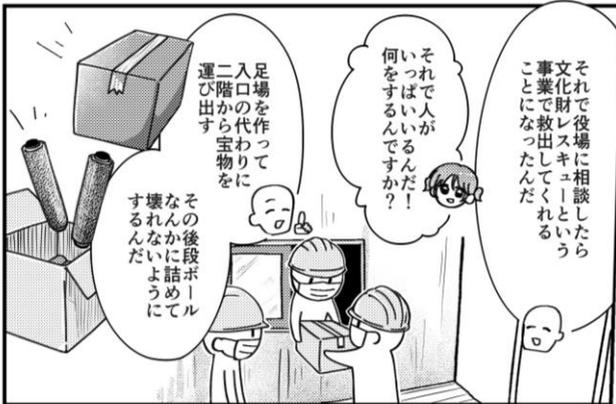
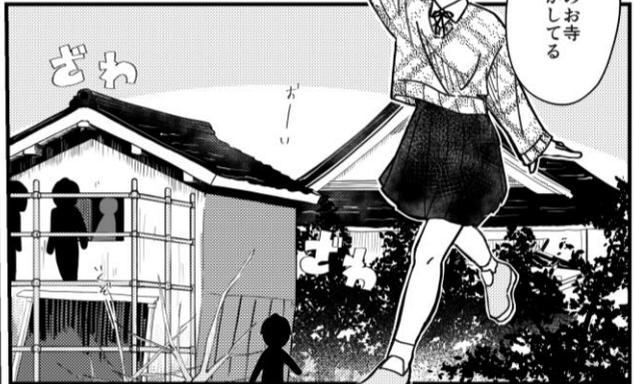
お寺でのレスキュー

絵・みやたに

編

あれ

あのお寺
何かしてる





水濡れ文化財を見つけたら...

天野真志(国立歴史民俗博物館)

大雨や台風などで大切な文化財が水濡れ被害を受けると、カビや腐敗が進行してしまいます。被害を発見したら、材質によって具体的な方法は異なりますが、なるべく早く乾燥させることが必要になります。

特に、古文書や図書といった紙製資料は水を含みやすく、迅速な処置が求められます。ただし、ドライヤーやストーブ等を用いた熱による乾燥は、かえって資料を傷めてしまいます。吸水紙(新聞紙やキッチンペーパーなど)によっておおよその水気を抜いたあと、日陰でゆっくり乾かすことが基本的な方法です。対象が数百点、数千点におよぶ場合は、いったんビニール袋に包んで冷凍保管し、少しずつ解凍・乾燥作業をおこなうことも可能です。

被災した資料はカビや汚損物が付着しており、健康への被害も懸念されます。作業する場合は、最低限ニトリル手袋とマスク(N95ないしDS2規格)を装備することが重要です。



雨漏りによって濡れ、カビが発生している掛軸



文化財の具体的な取り扱い方法などを知りたい方は、天野真志・松下正和編『地域歴史文化のまもりかた 災害時の救済方法とその考え方』(文学通信、2024年)をご参照ください。(下記ページで公開中)

<https://bungaku-report.com/preserve.html>



私たちの大切な文化遺産を救出しよう

高妻 洋成

(国立文化財機構 文化財防災センター所長)

現代を生きる私たちの町には世々を経て伝わってきている風習や風景があります。それはお寺や神社、地区ごとの年中行事やお祭り、あるいはなりわいとして、その町をその町たらしめているものなのです。いわば、町のアイデンティティともいうべきものでしょう。

私たちが暮らす町のアイデンティティは、突然、現れたものではありません。昔から少しずつ変化しつつも受け継がれてきたものです。そして、また、次の世代に引き継いでいくことになります。町には必ず歴史があります。そのような意味で、私たちの町の風習や風景は、大切な文化遺産ということになるのです。

町全体で受け継いできたものもあれば、家庭の中で受け継がれてきたものもあります。災害では、この私たちの町の大切な文化遺産が大きな被害を受けます。町を復興させるということは、町のアイデンティティを取り戻すこと、すなわち、その町の日々の暮らしを取り戻すことです。被災した町の文化遺産を救出する文化財レスキュー、それは、町の復興のために必要となる活動であり、まさに復興の第一歩と言うべきものでしょう。



文化財防災センターHP <https://ch-drm.nich.go.jp/>



いしかわ歴史資料保全ネットワークとは？

石川県では、令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震を契機として、県内の大学教員や自治体職員、博物館学芸員、歴史研究者を中心として、いしかわ歴史資料保全ネットワーク（略称：いしかわ史料ネット）が同年3月1日に発足。石川県内に残された歴史資料を対象に、全国各地で結成されている「史料ネット」と同様、その保存・継承のため、大規模災害発生時の対応および災害発生に備えた歴史資料等の保全・活用を進める活動を展開しています。



いしかわ歴史資料保全ネットワークHP

<https://sites.google.com/view/ishikawashiryonet/>



制作の目的と経緯

- ※実際にあったレスキュー事例をもとに作られたストーリーです。
- ※この冊子の制作は、いしかわ歴史資料保全ネットワーク（いしかわ史料ネット）が、被災地における文化財保護、文化財レスキュー活動への関心・理解を高め、地域の歴史・文化資料の喪失を防ぎ、今後展開される各地のレスキュー活動の啓発に資することを目的に企画しました。
- ※シナリオはいしかわ史料ネット会員が作成、作画は金沢学院大学芸術学部芸術学科有志（表紙および1話目）、金城短期大学部美術学科有志（2話目以降）の学生がそれぞれ担当しました。国立文化財機構 文化財防災センター、能登町教育委員会事務局・金沢学院大学文学部文学科歴史学専攻が監修・協力しました。
- ※このパンフレットの利用、配布等についての注意点等は、本会HPよりご確認ください。